



札幌市学校体育研究連盟

令和 6年 11月 20日 第 203号

編集：編集部

札幌市立元町小学校

発行：事務局

札幌市立澄川南小学校

文責：川島 貴裕（札幌市立平岸小学校）

第60回北海道学校体育研究大会 札幌大会 兼 第64回全国学校体育研究大会北海道大会つし大会 兼 第33回札幌市学校体育研究大会

来年の全国大会に向けて、各会場、各授業が主張をもって取り組まれた札幌大会でした。「つなぐ体育 ひらく未来」という全道統一研究主題のもと、「豊かなスポーツライフの実現を目指し、『自ら』課題を発見し、その解決に向けた学習過程を通して資質・能力を育む体育・保健体育学習」というテーマで授業が構築されていました。授業者・研究部を中心に何度も会合して話し合いが行われ、子どもたちの学びが深まるために練りに練られた授業でした。

本号では、北九条小学校会場での授業内容、参会者や助言者の御講評を御紹介させていただきます

研究の概要

【北海道学校体育研究連盟 全道統一研究主題】

「つなぐ体育 ひらく未来」

～見方・考え方を豊かに働かせ、自己実現する体育活動～

【大会主題】

「豊かなスポーツライフの実現を目指し、『自ら』課題を発見し、その解決に向けた学習過程を通して資質・能力を育む体育・保健体育学習」

【主張1】

子どもの「～したい」を生む教材づくり

【主張2】

子どもが自ら課題を発見し、解決するための手だて

【主張3】

子どもが自分に合った方法で学習できる学習過程の工夫

これまでの札幌支部の研究

北海道・他支部の研究

北海道・札幌の子どもの実態

授業の概要

第3学年 体づくり運動 多様な動きをつくる運動 「お宝を探せ！トレジャーハンター！」

【主張1】

- ・学習テーマ「お宝を探せ！トレジャーハンター！」の設定
→動きの宝を見付ける活動を位置付け
- ・各運動をローテーション
→様々な動きに触れることを通して運動経験を増やし、
運動する楽しさや喜びを醸成



【主張2】

- ・運動の行い方が工夫できる場を設定し、学習カードを活用
→学びの振り返り、次の学習への見通しをもつ
- ・「お宝発見タイム」の設定、タイムの合間の工夫
→ペアやグループで交流し、考えたことを共有

【主張3】

- ・トレジャーマップ、チャート、各ワールドの設定
→単元の見通しをもち、高めたい運動を自分で選択
- ・ペアでの活動、見合う場の設定
→動きの質を高める



テクニシャンワールドで、どんなお宝を見付けられるかな

第6学年 器械運動 跳び箱運動 「跳び箱運動レベルアップへの道」

【主張1】

- ・易しい場の設定
→自分の力に合わせて場を自己選択し、主体的に活動する姿を引き出す
- ・「跳び箱運動の道 book」を作る活動
→動画、練習の場、アドバイスを記録し、自己の動きの高まりや成長を実感

【主張2】

- ・技のロードマップ(段階表)を提示
→自分に合った練習の場を見付け、調整し、見通しをもって活動できるようにする
- ・選択した課題ごとのグループ分け
→課題を共有しやすくし、他者との動きを比較しながら練習、
他者と学ぶよさを実感し、課題解決を目指す

【主張3】

- ・アドバイスを付箋に残し、資料に貼り付け、全体で共有
→技の達成につながる知識を共有、自分の練習に生かす
- ・ICTの活用
→連続図、見本動画を共有したり自分の動きを撮影して自分の伸びを実感したりする



どのように練習すると課題を解決できるかな

討議の内容

第3学年 体づくり運動 多様な動きをつくる運動

「お宝を探せ！トレジャーハンター！」

	成果	課題
主張1	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題が子どもたちに合っていた。 ・課題に迫り、運動を突き詰めていく姿が良かった。 ・楽しみながら主体的に取り組んでいた。 ・3年生らしく、楽しくフープ1つでたくさんの動きが出ていて凄い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ほかの運動への広がりがあったとしても良かったのではないかな。 ・本時では、色々な種類のお宝を手に入れることか、レベルアップしたお宝をつくっていくことだったのか。
主張2		<ul style="list-style-type: none"> ・「こんな運動ができたよ。」「こんなお宝あったよ。」を共有することで、今やっている運動と違った運動を発見することができたのではないかな。 ・指導要領に示されている「つかむ、持つ、降ろす、回す、転がす、くぐる」などを、動きの工夫として前半に確認し、活かして工夫しようとする、狙っていた運動の広がりにも迫ることができたのではないかな。 ・体づくり運動領域の目的が基礎的な動きを培うことだとしたら、幅を広げるだけでよかったですか。どの動きにも「回す」が入っていたので、共通項的なものを見付けられたら、「自分はこうしよう！」を見付けられたのでは。
主張3	<ul style="list-style-type: none"> ・テクニシャンワールドでお宝を見付けようという課題が、子どもものやる気を引き出してよかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・途中の交流はペアで行っていたが、「広がり」をねらうならば、他のグループと行う方が良かったのでは。思考が深まるような関わりとして、先生が理由を問うような関わりをすると良かった。 ・フープを使ってどんなことができるのか遊び方をたくさん見付けるといふことであれば、Yチャートの3つを1個ずつでもよいかうめられるようにしたい。



第6学年 器械運動 跳び箱運動
「跳び箱運動レベルアップへの道」

	成果	課題
主張1	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちに価値付け、評価している姿があるから、「～したい」に繋がるのだと思った。「跳び箱運動の道 book」が学びの蓄積になると感じた。 ・苦手な子への配慮がされていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・すぐに練習の場を決めていたが、子どもたちは何を基準に課題を設定していたのか。 ・できる子の場所、できない子のステップアップの場所という価値観になってしまった子もいたのではないだろうか。
主張2	<ul style="list-style-type: none"> ・技が上手な子が見るのも伝えるのも上手であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・できないとなったときに、ロードマップに立ち返ったりロードマップのポイントのうち、どれができていないかを考えたり確認できたりすると良かった。 ・見るポイントが明確になっていることで、伝えることが苦手な子でも「できていた」「〇〇だった。」などのアドバイスを全員ができたのではないか。
主張3	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の場や学び方を選択するところが良かった。その場でどうしたらよいかなどのアドバイスをもらって学習を進めたり、「自分の課題はこれだ。」と伝えたりする学び方が育っていた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ロードマップに課題を貼るタイミングも子どもに任せるといった話し合いは授業づくりであったのか。好きなタイミングで貼れる、他者評価で貼れるなど、貼るタイミングに自由度があっても良いのでは。 ・クロームブックを全員に持たせて使わせることで、ペアで「映して」「見せて」などのやり取りが生まれる。 ・ロードマップの図ができるこの視点でしかない。できないことを前提としたロードマップである必要がある。

≪講評≫

北海道教育大学旭川校 教授 高瀬 淳也 様

- ◆「主体的な学習」を促すには、教える側の教師のもつ到達目標を、学ぶ側の子どもが自覚する学習目標に転化する必要がある。「今日はこれをやる」を分かるように説明しなければならない。つまり、学習問題や発問は、学習内容やゴールの姿を説明し、方向性を示す必要性もある。今回の授業については、個々が一番面白くてよかった。前時の振り返りをきちんとつなげることができた部分だった。時間にすると短くてあっという間だったが、深いなと思った。
- ◆調査によると、児童にはそれ自身が学習する道筋があり、教師はそれを補償していけるような教授活動の制御の必要性が示唆されている。「主体的な学び」と言えど、先生は子どもたちに指導する必要がある。今回の授業では、それがされていた。課題の時にこそ教師が関わる必要がある。
- ◆2実践は、軽重をつけた教師の意図的な関わりが多く見られ、先生がいないところでも一生懸命に運動に取り組んでおり、「主体的な姿」であった。
- ◆先生が関わることで、だんだん分かるようになってきて、前よりもできたという達成感を味わわせたいという思いが見えた。